

# カラスノエンドウ

からすのえんどう  
烏野豌豆

マメ科

ビジネスライクが引き起こしたしっぺ返し

漫画の主人公キューティーハニーは空中元素固定装置を組み込まれたアンドロイド（人造人間）である。大気中の元素からあらゆるものを作り出すことができるこの空中元素固定装置によって、キューティーハニーは大気中の元素から瞬時に衣服を作り出して変身することができる。お色気たっぷりの変身シーンに心躍らせた淡い思い出を持つ男性も少なくないだろう。

大気中でもっとも多い元素は約八割をも占める窒素である。窒素はアミノ酸や蛋白質の原料となる重要な元素である。この豊富な窒素を大気中から取り出して自由に使うことができたらどんなにすばらしいだろう。

カラスノエンドウは、この夢を実現している。カラスノエンドウの根には粒状のものがついていて、その中には根粒菌という菌がすんでいるのである。根粒菌は大気中の窒素を取り込むことができる。カラスノエンドウは根のなかでこの窒素をもらうことができるので、やせた土地でも生育することができるのだ。一方の根粒菌は酸素が苦手な

のでカラスノエンドウの根に守ってもらっている。そして光合成によって作られた栄養分をもらって暮らしているのだ。持ちつ持たれつのこの関係は共生関係と呼ばれている。カラスノエンドウ以外にもマメ科の植物の多くは根粒菌と共生関係にある。スーパーで売られている枝豆の根もよく見ると根粒がついているし、春の田んぼを彩るレンゲも空気中の窒素を肥料にするために播かれているのだ。

カラスノエンドウには、根粒菌のほかにも重要なパートナーがいる。

その一つはハナバチである。カラスノエンドウの花は上の花びらがピンと立ちあがっている。旗弁とよばれるこの花びらは、その名のとおり虫に蜜のありかを知らせる目印になっている。ハナバチがやってきて足で下の花びらを押し下げると、中から雄しべと雌しべがあらわれる。そして、花の奥にある蜜を報酬とする代わりにハナバチのお腹に花粉をつけて運んでもらうのである。

もう一つのパートナーはアリである。カラスノエンドウの葉の付け根には黒い斑点があるが、これは蜜を出す蜜腺である。蜜は虫を呼び寄せるために花のなかに用意されているのがふつうである。ところがカラスノエンドウはアリを呼び寄せるために葉の付け根から蜜を出しているのだ。アリは甘い蜜をもとめてカラスノエンドウへとつぎつぎにやってくる。このアリが、カラスノエンドウの茎や葉を食べようとする害虫を追い払っ



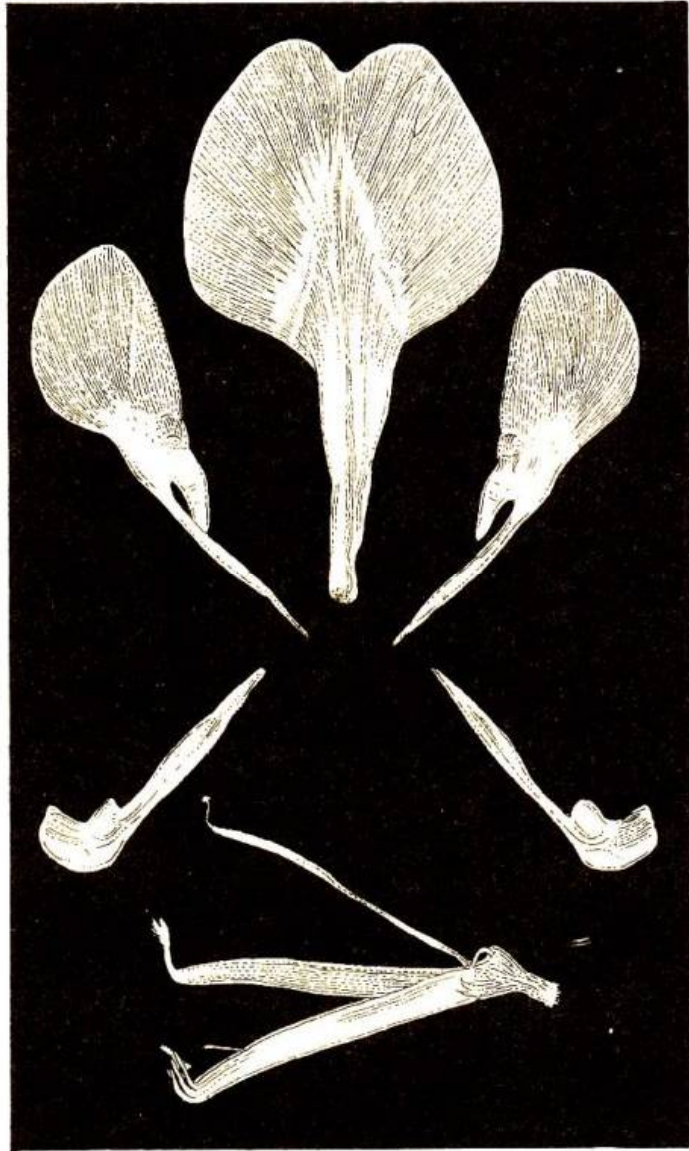


てくれるのである。アリは蜜をもらった代償に用心棒を買って出たわけではない。アリはただ甘い蜜を吸える蜜腺を守ろうとしているだけである。しかし、結果的にはアリによつてカラスノエンドウはみごとに守られている。完全にビジネスライクな関係である。

ところが、この用心棒を寝返らせる害虫があらわれた。アブラムシである。アブラムシは「アリの牧場」を語源とするアリマキの別名を持つほど、アリとは切っても切れないうちにある。アブラムシはお尻から甘い蜜を出す。アリはその蜜をもらう代わりにアブラムシを天敵から守るのである。しかも、このアブラムシの甘い蜜は元はといえばカラスノエンドウから奪ったものである。カラスノエンドウの葉でできた糖分は茎の中の師管を通つて各器官へ送られる。アブラムシはこの師管から栄養分を吸っているのだが、師管を通る液は、糖分が多いので体外へ排出する必要がある。この排出した糖分がアリへの報酬となっているのである。アブラムシにとっては一石二鳥のうまみのある話だ。

アブラムシはカラスノエンドウからせつせと養分を吸い取ってしまう。しかし、頼りのアリはアブラムシの虜となって役に立たない。ましてやその報酬が横取りされた糖ではやりきれない。

まさに報酬がものをいう。ビジネスライクなパートナーシップというのは厳しいものである。







名前	カラスノエンドウ
科名	マメ科
学名	<i>Vicia sativa</i> L. subsp. <i>nigra</i> (L.) Ehrh.
花期	春
道ばたなどでよく見かけます。	
くきは細長く、つるのよ うにのびていきます。	
花がさいた後にできる実 は、まっ黒になり、中に は10こほどの種ができ ます。	
種をとり出したさやで、 ふえを作って遊びます。	
名前の いわれ	実が「カラス」のよ うにまっ黒になるこ とから。

写真 名前	花の 色	花の長 さ	茎の長 さ	種子 の数	その他
 カラスノエンドウ	紅紫	12～ 18mm	60～ 90mm	5～1 0個	茎は四角 い



語源	別名：ヤハズエンドウ。 豆果が黒く熟すのをカラスのたとえた。スズメノエンドウに比べて花も果実もおおきいので対照してつけられました。
分布	日本全土
生育地	草地、野原など
方言	クロエンドウ、ノエンドウ、フエクサ
花期	4～6月
花の径	50～100cm



カスマグサ *Vicia tetrasperma* (マメ科 ソラマメ属)

カスマグサは本州から琉球、ユーラシア大陸の暖温帯に広く分布する一年草。スズメエンドウとよく似ており、やや乾燥した路傍などに生育する点も同様に、混生していることも多い。小葉は8~12枚あり、スズメエンドウよりも少ない。小葉の先端が円頭でやや尖ることはよい区別点である。花弁には紫色の紋様があり、花は1~3つで、少し離れてつく。果実がなっていれば、無毛であるので、簡単にスズメエンドウと区別できる。和名はカラスノエンドウ(ヤハズエンドウ)とスズメエンドウの中間的であるとの意味。





**カラスノエンドウ** (マメ科ソラマメ属:1~越年草:草丈 ~100センチ:  
花期 ~7月)

### 薬効

胃炎	山菜
----	----

### 分布生 育場所

科名:マメ科/属名:ソラマメ属  
和名:烏の豌豆/別名:ヤハズノエンドウ/学名:*Vicia angustifolia*  
本州、四国、九州、沖縄の野原、土手、空き地など日当たりの良い場所  
朝鮮半島、台湾、アジア、ヨーロッパに分布

マメ科ソラマメ属 [クサフジ](#) (草藤)  
マメ科ソラマメ属 [ナンテンハギ](#) (南天萩)

(←拡大画像はクリックします)

### 見分け方・特徴

茎は、四角形、根元から分枝して、左右に這い、巻きひげを伸ばして他のものに絡みつき高さが50~100センチになる  
葉は、互生、長さ4~6センチの羽状複葉、3~7対の小葉があり、小葉は狭倒卵形、長さ0.5~1.5センチ  
花は、4~7月、葉腋に1~3個の紅紫色の約1.5センチの蝶形花をつける  
花後、長さ4~5センチの平らな豆果になり中には5~10個の黒い種子があり、黒茶色に熟してはじけ飛ぶ

近縁種の、小型のスズメノエンドウは、豆果の種が2~3個ある。[ハマエンドウ](#)は、豆果が痩せている。  
カラスノエンドウとスズメノエンドウの自然交雑種のカスマグサは、小葉が楕円形で豆果の種子が3~6個で区別する

## ■ カラスノエンドウ ■

(烏野豌豆:マメ科)



(撮影場所:光が丘公園/撮影日:08/03/28)

語源	別名:ヤハズエンドウ。 豆果が黒く熟すのをカラスのたとえた。スズメノエンドウに比べて花も果実もおおきいので対照してつけられました。
分布	日本全土
生育地	草地、野原など
方言	クロエンドウ、ノエンドウ、フェクサ
花期	4~6月
花の径	50~100cm



カラスノエンドウ











## にている野草の見分け方

つるの先は分かれず1本。実の中の種は3~5こ。

カスマグサ



花は小さく、つるの先は3本に分かれる。実の中の種は2こ。

スズメノエンドウ







名前	カスマグサ
科名	マメ科
学名	<i>Vicia tetrasperma</i> (L.) Schreb.
花期	春

カラスノエンドウをやや小さくした感じで、種も3～5個と少なめです。

カラスノエンドウはつるの先が3本に分かれています。カスマグサは分らないのが特徴です。

花には長い柄(え)があります。



名前のいわれ	「カラスノエンドウ」と「スズメノエンドウ」の中間という意味で、「カ」「ス」間(マ)と名づけられた。
--------	---



名前 スズメノエンドウ

科名 マメ科

学名 *Vicia hirsuta* (L.)  
S.F. Gray

花期 春

カラスノエンドウにくらべて全体に小さく、花も目立ちません。

つるの先は3本に分かれています。

花は数個が集まってつきます。

実の中にできる種は2個だけです。



花



実

名前のいわれ 「カラスノエンドウ」よりも小さいことから「スズメ」の名がついた。



スズメノエンドウ *Vicia hirsuta* (マメ科 ソラマメ属)

スズメノエンドウは本州から琉球、ユーラシア大陸などの暖温帯に広く生育する一年草。ヤハズエンドウに比べ、やや荒れ地に生育する傾向がある。秋に芽生え、4月頃から開花する。葉は12~16枚の小葉からなり、先端は巻きひげになる。小葉の先端は平切状で、葉脈の先端が棘状に突出する。中肋の両側に一列の微毛がある。花は1つの花茎に4つ前後付くことが多く、薄い紫色の小さな花がまとまって付く。1つの果実には2つの種子ができ、表面には微毛が目立つ(この点はよく似た種であるカスマグサとの良い区別点)。和名は、ヤハズエンドウ(カラスノエンドウ)に比べて小さいので、雀と名付けられたのであろう。





■ スズメノエンドウ ■  
(雀野豌豆: マメ科)



(撮影場所: 北沢公園 (撮影日: 2007/04/09))